

2020年（令和2年） 1月29日 水曜日

デーリー東北 14面 掲載



一つでも多くの入賞を目指し、氣勢を上げる
スピードスケートの青森県選手団IIホテルグ
ローバルビュー八戸アネックス

八戸国体きょう開幕 青森県選手団が氣勢

第100回全国冬季大会スケート・アイスホッケー競技会「水都新時代！八戸国体」は29日に八戸市など青森県南地方で開幕し、2月2日まで5日間の日程で4競技に競技を繰り広げる。県選手団は28日、宿泊先や競技会場での結団式に臨み、地元での戦いに向けて士気を高めた。

アイスホッケーの選手団はクルアアイスパーク八戸で結団式を行い、選手団長の佐々木郁夫・県スポーツ協会の郷土の誇りを胸に最後まで戦い抜いてほしいと激励し、県選手団旗手の津久家健・青い森信金に旗旗を手渡した。終後、選手団はリンクに移動し、成年、少年が合同で最終調整した。

30日に初戦を迎える少年の笹川征廉主将（工大一高）は「直前の、インナーハイの疲れはあるが、絶対には勝りたい」と闘志を燃やした。

前回は成年、少年共に3位、天皇杯得点は北海道に次ぐ位だった。今大会は元アジアリカー入を擁する成年に、5年ぶりVの期待がかかる。指揮官1年目の澤口雄次監督（青い森信金）は「地元の期待に応えたい。天皇杯得点も1位を狙う」と意気込んだ。

スピード選手団も宿泊先で結団式を行い、一丸で入賞ラッシュを目指すべく、氣勢を上げた。直近の全国大会で自己ベストで入賞した成年男子距離の赤坂（八戸西高、法大）は、調子悪くない。一つでも高い順位で入賞したい」ときっぱり。

成年女子の船場亜監督（青森学院）は「強豪のいがいが、表彰台は確目感。上れたら選手への感謝に期待を寄せた。初日の20日はYSアリーナ八戸で開会式が行われ、地元選手団を代表してスピード成年男子山本大史・明大と同成年女子の澤尻麗英（八竿）が宣誓する。アイスホッケーとフィギュアは競技が始まる。

取材班